



EVENT

イベントのお知らせ

お出かけ前に最新の情報をHPなどで必ず確認してください。

まちライブラリー HP machi-library.org/

東京 町田

3/14 南町田グランベリーパーク植本祭 [中止]

大阪 森ノ宮

3/25 ブックフェスタ実行委員会

まちライブラリー@もりのみやキューズモール 18:30~20:00

まちライブラリーブックフェスタ 2020in関西を盛り上げるべく、実行委員会が開催されます。

東京 奥多摩

4/11 第3回ローカルメディアフォーラム

奥多摩ブックフィールド 13:30~16:30(予定) 主催：一般社団法人地域デザイン学会

参加費(資料代含む)フォーラム1400円(ドリンク、軽食あり)当日受付にて集金

奥多摩ブックフィールドを会場に「地域における“本のある場”のつくりかた。」についてのフォーラムが開催されます。まちライブラリー提唱者磯井純充、まちライブラリー@奥多摩ブックフィールドのメンバーがスピーカーとして事例報告を行います。

大阪 難波

まちライブラリーブックフェスタ2020in関西【4/19(日)~5/17(日)よりピックアップ

4/19 ブックフェスタ オープニングシンポジウム

大阪府立大学 I-saiteなんば 13:00~16:30

まちライブラリー関係者と有志が中心となり、公共図書館、博物館、書店など関西の本にまつわる場所約300カ所をつなぎ、本と人に出会うイベント、まちライブラリーブックフェスタ。関わっている人と一緒にその魅力や意義について考えるシンポジウムです。

大阪 森ノ宮

4/25 まちライブラリーブックフェスタ もりの一箱古本市

もりのみやキューズモール1F BASEパーク 10:00~17:30

ブックフェスタのイベントのひとつとして毎年好評の一箱古本市。青空の下で思いがけない本に出会えるチャンス。

大阪 森ノ宮

4/26 もりのみや植本祭

まちライブラリー@もりのみやキューズモール 15:20~16:40/17:00~18:20(2回)

おすすめの本を持ち寄って、人と出会うまちライブラリーならではの本のイベント植本祭をブックフェスタ中も開催します。

大阪 難波

5/10 マイクロ・ライブラリーサミット2020(第8回)

大阪府立大学 I-siteなんば 10:00~16:00 参加費:1000円(資料代)

シンポジウムや各地から集まった小さな図書館(マイクロ・ライブラリー)の活動事例発表を行います。

その他のお知らせ

・まちライブラリー@奥多摩ブックフィールド

3/1(土)冬眠明け臨時開館、3/7(土)11:00~15:00まで

4/11(土)第3回ローカルメディアフォーラム 13:30~16:30(予定) フォーラム1400円(ドリンク、軽食あり)

・まちライブ06 4月発行予定

特集ブックフェスタ&マイクロ・ライブラリーサミットin2019

フォトギャラリー

磯井純充旅の記録。講演の様子は裏面のエッセイでどうぞ。



JR茅野駅直結の coworkingスペースに併設された「ワークラボ八ヶ岳」(1/18)



シエスタハコダテ「函館コミュニティプラザ Gスクエア」でのワークショップ(1/26)



焼津市の「みんなの図書館さんかく」主宰者土肥潤也さん(2/16)



長野県立図書館のイベントで語り合う平賀研也さん、吉成信夫さん、磯井純充(右から)(2/22)

旅の断想

～講演と論文を終えて～

1 月から2月にかけて長野県茅野市、北海道函館市、静岡県焼津市、長野県長野市で講演を行いました。茅野市では茅野駅前の商業施設内のワークラボ八ヶ岳で、まちライブラリーの話をしていただきました。ここは地元の方々だけでなく、公立諏訪東京理科大学の学生にも利用されており、講演には学生からシニアまで多世代の参加がありました。特に印象的だったのは、学生が講演後すぐに登録申請を申し出て、自分たちなりのまちライブラリーをはじめようとしたことです。また、茅野市内にある蓼科高原で山小屋をまちライブラリーにしようという計画もあり、八ヶ岳のふもとにまちライブラリーが増える兆しが見えはじめて嬉しいことです。

函館市ではキャンパス・コンソーシアム函館主催の「図書館とまちづくり」をテーマとした研修会で「まちライブラリーを活用した地域のまちづくり」について話をさせていただきました。函館には多くの大学があり、それぞれの大学の特色を活かした活動が熱心にされています。そうした活動の一つとして、研修会の会場でもあった函館コミュニティプラザ Gスクエアの本棚をまちライブラリーにしよう検討されています。講演とワークショップをとおして、大学で図書館を研究する皆さんと非常に密度の高い議論ができま

した。

2月には焼津市と長野市に行きました。焼津市では駅前商店街の一角にオープンする「みんなの図書館さんかく」のイベントとして、まちライブラリーの話をしていただきました。「さんかく」とはみんなが「参画」できるよさという意味と、行政、市民、ボランティアの連携を柱にしていることを表しています。主宰者の土肥潤也さん(25歳)は、80万円以上のクラウドファンディングを成功させ、自分たちで借りた場所を仲間とセリフビルトしてオープンにこぎつけました。講演には土肥さんの親世代の方から若い人まで多様な方が集まってくださいました。土肥さんはこの場所をまちライブラリーにするにあたって私に電話で相談したときに、「あなたはずっともまちライブラリー向かないね」と私に言われたことが印象深かったと語ってくれました。「事を始めることが得意な人」と「事を維持することが得意な人」がいるという私の真意をくみ取ってくれたのです。

長野市では長野県立図書館主催の「信州発・これからの図書館を考えるフォーラム これからの公共について考えるための対話」に呼んでいただきました。長野県立図書館の平賀研也館長、みんなの森ぎふメディアコスモス岐阜市立中央図書館の吉成信夫館長と私がテーマに

沿って語り合いました。お二人とは前にも対談したことがあり、非常に中身の濃い内容となりました。印象的だったのは、吉成館長がそれまでのご自身の活動を離れて図書館長になろうと思ったのは、マイクロ・ライブラリーサミットを知ったことがきっかけだったと話されたことです。「ベルガーディア鯨山 森の図書館」主宰者・佐々木格さんが、わざわざご夫婦で訪ねてきて「この本は絶対吉成さんにあげたい」と『マイクロ・ライブラリー図鑑』を渡してくれたそうです。佐々木さんは、震災後の2013年のマイクロ・ライブラリーサミットで、自らの手で作った私設図書館と亡くなった方の思いを風に乗せて伝える「風の電話」の話をしてくださった方です。元々知り合いだった佐々木さんに手渡された本で私たちの活動を知った吉成さんは「これだ!」と感じたというエピソードを話してくださいました。長野県立図書館は公共図書館とは思えないような場所で、トークショーもカフェのような雰囲気の中で行われました。会場からわずか20メートル程のところで中高生が勉強していたり、コーヒーを片手に立ち見で聞いている人がいたりして、カジュアルで寛いだ空間が広がっていました。

これら4回の講演は私にとって、年頭に書き終えた博士論文の整理と反すうの機会にもなりました。まちライブラリーをやる人はどういう状

況だと上手くいくと感じ、どういう状況だと行き詰まってしまうのか、社会的な目標やビジネス的な成果を求める人が行き詰まり、逆に自分の人生の課題に挑戦する人は楽しくやっているうちに無意識の中で、結果として地域社会に貢献しているようなまちライブラリーがあるということがわかってきました。我々は成果を求められる活動でなければ、意義がないと思いがちですが、遊び心や自らの強い思いで始めたものが、結果として人の役に立ったり、自分自身の生きがいにつながったりすることがあるのです。

まちライブラリーは、それぞれの人が生き生きと活動したり、新たな発見をしたり気づきを得たりする場所です。堅苦しい社会的な理念だけで進められているわけではありません。そのことを大事にしながらか、これからも活動を続けていきたいと思えます。

2020年3月

まちライブラリー提唱者 磯井純充